
雨降る夜に……

カルタ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨降る夜に……

【Nコード】

N8301N

【作者名】

カルタ

【あらすじ】

夜の散歩が日課である大学生と、幽霊の女の子の五日間。他愛もない会話と、少しの笑い、感動をどうぞ！

(前書き)

少しコメディー混じりですが文学短編小説です。

お楽しみ下さい。

深夜0時、梅雨入りしたばかりなので外は雨にもかかわらず

カチャツ

「戸締まりよし、行くか」

俺、十々川桐ととかわきりは、傘を差して日課の散歩に行く。

大学に入学し、一人暮らしを始めてからは毎日散歩している。

「雨音を聞きながらつても楽しいな……」

不規則なリズムに耳を傾けながら公園に入ると、

「……………雨、やっと降ってくれた」

先客が居た。高校の制服を着て、ピンクの傘を差した女の子だ。こんな時間に高校生が出歩くのは良くないと思ったので、

「こんな時間に何してるんだ？ 早く家に帰りなさい」

良い子ぶって注意してみた。

だが返ってきた言葉は、

「私が見えるの？」

予想していたどれとも違った。彼女は更に続ける。

「へえ、幽霊が見える人ってホントに居るんだ」

……幽霊？何を言ってるんだ、彼女は。

「心配してくれてありがとう。私は水谷優^{みずたにゆう}。幽霊だから大丈夫よ」
優は柔らかく微笑んでそう言った。

「もう時間だから行かなきゃ。じゃあ……」
優は手を振りながら、

「また、雨降る夜に会いましょう」

そう言って、虚空に消えていった。

.....

次の日、天気は晴れ。

いつもの散歩の時間、頭をよぎる彼女の、優の言葉。

『また、雨降る夜に会いましょう』

その日、公園に優の姿はなかった。

.....

天気は土砂降り。文句無しの雨。
少し急ぎ足で公園に向かう。

「あつ、来てくれたんだ」

「昨日と同じ場所に、優は立っていた。
毎日歩いてるんだよ」

「そこは『会いに来たんだ』とか言ってくれると嬉しかったな」
「……会いに来たんだ」
「嬉しくも何ともない……」

他愛もない会話を交わし、今更ながら自己紹介する。

「俺は十々川桐、大学一年生。毎日この辺を散歩してる。優はな
んでここに？」

「死んだ場所は遠いんだけど、暇だから漂ってきた！」

「……ツッコむべき？スルーすべき？」

「スルーをお願いします！」

「承りました。じゃあなんで幽霊に？」

「それは……」

そこまで言うと、ゆっくり天を仰ぎ、

「ゴメン、時間だ。続きはまた、雨降る夜に……」

そう言って、一昨日と同じように消えていった。

.....

二日連続で雨。

やはり公園には優が居た。

「ヤッホー、一日振り！」

「ヤッホー、一日と二分振り！」

「やけに正確だ!？」

嘘だけど……

「昨日の続き、聞いてもいいか？」

「どうしようかな」

「やっぱりいいや、それじゃ！」

渋っているのが帰ろうとすると、

「わく、話す話す！話すから待って〜！」

予想通りの反応が返ってきた。

「じゃあなんで幽霊になっただんだ？」

「傘を使うため」

「……………は？」

「この傘はね、私が死んだ日に母さんが買ってくれたの。母さんは私が小さい時に離婚して、物心ついてからは、その日初めて会ったんだ」

優は更に続ける。

「でも傘を買ってすぐ、私は交通事故で死んじゃった。でも……………」
「でも？」

「傘はどうしても使いたかった。だから初七日の雨の日の夜、10分だけ現世に来れるの。神様の許可で」

神様ってホントに居るんだなあ……………」

「もう10分過ぎてるぞ」

「あっヤバい。神様に怒られる！アイツ、怒ると怖いんだよね……………」

……

「神様をアイツ呼ばわりか!？」

「ハハハッ、まあね。じゃあまた、明日雨が降れば……」
手を振って消えていった。

.....

次の日、霧雨。

視界が霞み、景色がいつもと違って見える。

「ヤッホー、今日で七日目。お別れです！」

「あれ、五日目じゃないの？」

「死んだ日と次の日は晴れてたからね」

成る程……

「とゆうことで、ありがとね。少しでも話せてよかった！」

「ああ、こちらこそ。楽しかったよ」

「昨日の門限破りのせいで、今日はこれで終わり。バイバイ！」

「じゃあな。神様によろしく」

「ハハハッ、任せといて！」

優の体が薄れていく。

「それじゃあまた……」

優のお馴染みのセリフに、今日は俺の声も被せる。

「「雨降る夜に……」」

楽しそうな笑い声を残して、優は消えていった。

優しく降り注ぐ、霧雨の中に……

(後書き)

いかがでしたか？

雨を見て思いついたので、すぐに書きました。

慣れないジャンルで、おかしな点が多々あると思いますので、指摘していただけると嬉しいです！

以上、カルタでした！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8301n/>

雨降る夜に.....

2010年12月18日10時17分発行